

モニタリング結果報告書 (令和6年度)

1. 施設概要

施設名	厚木精華園		
所在地	厚木市上荻野4835-1		
サイトURL	https://atsugi.kyoudoukai.jp/		
根拠条例	神奈川県障害者支援施設に関する条例		
設置目的(設置時期)	神奈川県総合支援法第5条第11項に規定する障害者支援施設 (設置年月：平成6年7月)		
指定管理者名	社会福祉法人かながわ共同会		
指定期間	H28.4.1 ～ R8.3.31 (2016年) (2026年)	施設所管課 (事務所)	障害サービス課

2. 総合的な評価

総合的な評価の理由と今後の対応
<p>利用状況はC評価、利用者の満足度S評価、収支状況はA評価となったことから、3項目評価はA評価とした。</p> <p>入所利用者の昼夜分離の支援を進めた他、外部の生活介護事業所への通所、園内の日中活動の充実等、生活の質の向上に努めた。</p> <p>今後も、引き続き、高齢知的障害者支援のノウハウの普及啓発、施設入所利用者のグループホーム等への地域生活移行を積極的に進めてもらい、県立福祉施設としての役割を担ってもらいたい。</p> <p><各項目の詳細説明></p> <p>◆管理運営等の状況 高齢知的障害者の地域生活移行の取組として、外部の生活介護事業所、就労支援B型事業所への見学・体験を進めている。園内の日中活動も、活動の充実や外出等を実施した。 また、短期入所については延べ人数444名受入れており、地域のニーズに対応した。</p> <p>◆利用状況 「当事者目線の障がい福祉」の実現に向けた通過型施設として、地域生活移行に取り組んでいるが、実績は0人であった。利用者の年齢に合わせ、高齢者施設に移行するなどしているため、障害者グループホームへの移行実績は少ない。</p> <p>◆利用者の満足度 アンケートの設問はイラストを活用する等の工夫をし、原則、第三者委員の立合いで実施した。アンケート実施の結果、判断が難しいとした利用者の方が全体の3分の1程度おり、設問の設定や想いのくみ取りに関する課題については引き続き対応の検討が必要である。</p> <p>◆収支状況 定員に対する利用者率は上半期が80.4%、下半期が77.1%であった。昨今の燃料費高騰を受け、利用者支援に必要な支出を除き、光熱水費の節減に努めた。</p> <p>◆苦情・要望等 郵送物の取扱いに関する苦情があった。これをうけ、取扱いについて整理した。</p> <p>◆事故・不祥事等 高齢の利用者が多く、事故の内容の多くは転倒による怪我や通院の事例が多く挙げられている。</p> <p>◆労働環境の確保に係る取組状況 特に無し</p> <p>◆その他 特に無し</p>

3. 3項目評価の結果

3項目評価	利用状況 (項目6参照)	利用者の満足度 (項目7参照)	収支状況 (項目8参照)	3項目評価とは、3つの項目(利用状況、利用者の満足度、収支状況)の評価結果をもとに行う評価をいう。
B	C	S	A	S：極めて良好 A：良好 B：一部改善が必要 C：抜本的な改善が必要

4. 定期・随時モニタリング実施状況の確認

月例業務報告 確認	遅滞・特記事項があった月	特記事項または遅滞があった場合はその理由
	無	
現地調査等 の実施状況	実施頻度	現地調査等の内容
	①隔月実施 ②令和6年5月8日	①要修繕箇所の現地確認や、工事に関する打合せを行った。 ②不適切支援に関する確認
意見交換等 の実施状況	実施頻度	意見交換等の内容
	月1回	県と指定管理者とで定例打合せを実施。職員配置状況や運営上の課題等を情報共有した。
随時モニタリングにおける 指導・改善勧告等の 有無	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	指導・改善勧告等の内容

5. 管理運営等の状況

〔 指定管理業務 〕

事業計画の主な内容	実施状況等	実施状況に関わるコメント
利用者本位の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・意思決定支援のさらなる強化を図り、ヒアリングシートを活用で支給決定され、外部事業所（就労支援B型）への通所が決定。他にも利用者からの要望も増え、日中の過ごししの充実を図った。 （他の生活介護事業所7名・就労支援B型7名通所） ・日中活動の充実として、作業種を増やしたり、外部や地域との繋がりを増やし高齢者でも活躍できる場や役割を増やすことが出来た。（県独立リーグの野球チームとの連携。地域包括との連携等）また、近隣民間施設と協働してリサイクル活動を開始したり、活動や行事を一緒に行い、人手不足が活動の妨げにならぬよう協力体制の強化を図った。 ・地域生活移行の取り組みとして、当園グループホームの見学（14名）・宿泊体験（1名）実施した。 ・利用者や家族の意見をタイムリーに反映するため、利用者・家族の運営会議等への出席や、園長が利用者自治会へ出席し、直接利用者の声を聴く機会を増やした。 	当事者の思いや望む生活の実現に向け、さらに外部との繋がりを強化し、高齢知的障害者の地域生活移行について検討していく。

	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の方向性として「民間移譲」と「施設の小規模化」が出ている中、緊急の新規入所1名の受け入れとなった。療養型病院への移行と逝去で7名の方が退所された。短期入所については、泊数は短いものの、短期入所を初めて利用する方が増え、在宅での生活継続の支えとなることができた。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・支援の質の向上として、園内研修の実施や外部研修へ参加した。喀痰吸引3号研修で新規2名が資格を取得した。 ・虐待防止研修の全職員受講や人権自己チェックを年2回実施。また、虐待防止委員会に利用者、家族も出席。虐待防止の取組みに関して意見交換等を実施した。 	<p>専門技術の知識や技術を学ぶ場は、現場の意見を取り入れながら実施していく。</p> <p>職員一人ひとりが都度支援の振り返りを継続するとともに、現場の困り具合や不安を発信できる場や、解決策を一緒に考えていく体制づくりの強化を図っていく。</p>
地域貢献「ともに生きる社会の実現」	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者支援セミナー年間6回開催し、延べ98名の参加があった。 ・保育実習や介護等体験実習で9名の実習生を受け入れた。また、市立中学校の職場体験で3名の受け入れ、高校生のインターンシップ1名を受け入れた。 ・地元自治会と防災に関する地域連携を図った。 	福祉の担い手の育成や、地域づくりにさらに強化を図っていく。

〔 参考：自主事業 〕

事業計画の主な内容	実施状況等

6. 利用状況（県立障害者支援施設）

評価	入所の取組	退所の取組	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満
C	B	C	

入所の取組	前々年度	前年度	令和6年度
入所者数		103	92
対前年度比		—	89.3%
目標値		115	95
目標達成率		89.6%	96.8%

目標値の設定根拠： 入所利用の年間想定利用人数（入所定員＋地域生活移行計画の目標値）

入所者数の算出方法（対象）： 入所利用の年間利用人数（前年度末入所利用者数＋今年度の新規入所者数）

退所の取組	前々年度	前年度	令和6年度
退所者数		0	0
対前年度比			
目標値		5	5
目標達成率		0.0%	0.0%

目標値の設定根拠： 指定管理者募集時の事業計画における目標値

退所者数の算出方法（対象）： 地域移行者数（グループホーム、在宅）

＜備考＞

県立障害者支援施設では、令和5年度から「当事者目線の障がい福祉」の実現に向けた通過型施設として、新たに入退所の取組について、具体的な目標値を設定するとともに、入所者の算出方法も改めたため、前々年度は空欄としている。

なお、退所の取組は地域生活移行を評価するため、退所者数は死亡等の理由による退所を除いている。

7. 利用者の満足度

評価	《評価の目安》 「満足」（上位二段階の評価）と答えた割合が、S：90%以上 A：70%以上～90%未満 B：50%以上～70%未満 C：50%未満 ※評価はサービス内容の総合的評価の「満足」回答割合で行う。
S	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	定期調査	<p>利用者88名の面談に関し、苦情解決第三者委員の立ち合いで実施した。委員と日程が合わなかった利用者については、職員で面談を実施した。原則マンツーマン対応としたが、利用者からの希望で職員が面談に立ち合うこともあった。</p> <p>利用者から挙げた要望に対しては、利用者自治会へ園長が出席して回答したり、園の会議に利用者代表が毎月出席し、対応を確認してもらう機会を設けた。設問以外の要望も多く挙がるようになった。</p>

[サービス内容の総合的評価]

質問内容 厚木精華園の支援についてや要望・困り事等

実施した調査の配布方法 紙面配布し面談 回収数／配布数 86 / 88 = 97.7%

配布(サンプル)対象 施設利用者

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答が あった場合はその理由
サービス内容の総合的評価の回答数	63	8	2	2	75	11名判断が難しい
回答率	84.0%	10.7%	2.7%	2.7%		
前年度の回答数	56	0	0	1	57	31名判断が難しい
前年度回答率	98.2%	0.0%	0.0%	1.8%		
回答率の 対前年度比	86%	0%	0%	152%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

<備 考>

8. 収支状況

評価	《評価の目安：収支差額の当初予算額が0円の施設》 収入合計／支出合計の比率が、S(優良)：105%以上　A(良好)：100%～105%未満 B(概ね計画どおりの収支状況である)：85%～100%未満　C(収支比率に15%を超えるマイナスが生じている)：85%未満
A	

〔 指定管理業務 〕 (単位:千円)

		収入の状況					支出の状況	収支の状況	
		指定管理料	利用料金	その他収入	その他収入 の主な内訳	収入合計	支出	収支差額	収支比率
前々年度	当初予算	207,557	636,486	7,862	備考欄参照	851,905	851,905	0	
	決算	207,557	567,322	22,388	備考欄参照	797,267	831,506	-34,239	95.88%
前年度	当初予算	207,557	655,909	25,250	備考欄参照	888,716	876,798	11,918	
	決算	207,557	581,756	15,115	備考欄参照	804,428	798,608	5,820	備考欄参照
令和6年度	当初予算	207,557	618,393	12,440	備考欄参照	838,390	838,390	0	
	決算	207,557	585,261	15,295	備考欄参照	808,113	806,227	1,886	100.23%

※支出に納付金が含まれる場合、その内数 (単位:千円)

令和6年度 / 前年度 / 前々年度 /

＜備 考＞			
令和5年度の収支差額の決算額/収支差額の当初予算額の比率は48.83%			
	(予算)		(決算)
●令和6年度			
・経常経費寄付金収入	380千円	・経常経費寄付金収入	460千円
・その他収入	8044千円	・その他収入	8,339千円
・退職給付引当資産取崩収入	4,016千円	・退職給付引当資産取崩収入	6,496千円
●令和5年度			
・経常経費寄付金収入	480千円	・経常経費寄付金収入	1,395千円
・その他収入	11,641千円	・その他収入	8,150千円
・退職給付引当資産取崩収入	9,129千円	・退職給付引当資産取崩収入	5,570千円
・備品等購入積立資産取崩収入	4,000千円	・備品等購入積立資産取崩収入	0千円
●令和4年度			
・経常経費寄付金収入	530千円	・経常経費寄付金収入	690千円
・その他収入	5,464千円	・その他収入	12,455千円
・退職給付引当資産取崩収入	1,868千円	・退職給付引当資産取崩収入	9,243千円

9. 苦情・要望等 ☐ 該当なし

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備		件		
		件		
職員対応	苦情	1 件	後見人が園からの郵送物を受け取ったが、本人宛の郵送物が無断で開けられていたと連絡があり、謝罪。法人本部・県へ報告し、なるべく対応を取るよう話を受ける。	苦情解決第三者委員・県・法人本部へ報告。 改善策として、事前に郵送物の取扱いに関し「同意書」を交わす。基本的には郵送物は開封せずに定期的にご家族等へ郵送。手続き等で開封が必要なものは連絡をしてから開封とした。
		件		
事業内容		件		
		件		
その他		件		
		件		

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

10. 事故・不祥事等 ☐ 該当なし

発生日	①発生時の詳細な状況 ②県職員による確認の状況（内容及び実施日を記入） ③その後の経過（現在に至るまでの負傷者の状況、再発防止策等） ④施設に対する問題点の指摘やクレームの有無（有の場合は概要を記入） ⑤原因及び費用負担の有無（費用負担が有の場合は内容および負担者を記入） ⑥記者発表の有無（有の場合はその年月日を記入）
7月15日	①夜間、廊下が湿っているため、トイレから戻る際に職員が付き添う。居室に到着したため職員がその場を離れた後、居室入ってすぐの場所で転倒。ベッドのベッドボード（足側）の平面に右こめかみをぶつける。右こめかみに内出血あり。意識しっかりしており、怒って自分で顔を一度叩く。横になってもらい、氷枕を枕にすると右こめかみを冷やすことができ、クーリングを実施。バイタル異常なし。看護師へオンコール。嘔吐や血圧上昇などなければ様子観察し、状態異常があれば緊急搬送するよう指示あり。夜間、バイタル異常なし。翌朝、左手第2指が青く腫れているのを確認。痛みで動かそうとせず。クーリング実施。 ②7月16日事故報告第一報、本報告。 ③脳神経外科クリニック通院。CT検査実施。骨に異常なく、内出血なし。経過観察指示。加えて、整形外科通院。レントゲンの結果、左手第2指の付け根、及び第一関節に骨折箇所がみられる。患部固定にて処置。2週間後、1ヵ月後と2回通院し経過良好で完治。以降、動き等も問題なし。 ④無し ⑤廊下が湿気で濡れていたため靴底も濡れていた可能性があったにも関わらず、居室ベットまで見送り届けず、居室に入室したところで離れてしまった。また廊下も除湿器、扇風機などを用いて除湿し、ベッドには保護材を巻く等、ハード面への見直しもしていく。費用負担なし。 ⑥無し

9月4日	<p>① 9月2日夕方右腕が脱力確認。バイタル異常なし、様子も普段と変わらず。看護師も確認し、痣等もなく、痛がる様子も見られていないため様子観察の指示。</p> <p>9月4日朝、右腕の脱力が改善せず、整形外科へ通院。レントゲンの結果、右肩骨折と脱臼の診断。医師が整復を試みるも骨は戻らず、他の病院を紹介され、そのまま通院。CTの結果「上腕骨頸部骨折2ヵ所、脱臼」の診断。医師が整復を試みるも骨は戻らず、痛みが無い様子なので現状のまま 帰園し、翌日再度、整形外科受診の指示。9月5日整形外科を受診。左腕も痣や動きが悪いことを報告し、再度両腕のレントゲンを行った結果、左腕も右腕同様に上腕骨骨折・脱臼との診断。家族より手術しない方向性を示され、経過観察となる。</p> <p>② 9月5日事故報告第一報、本報告。</p> <p>③ その後3回通院し、11月28日が最終診察。レントゲンで骨がしっかりとくっついていることを確認。その後の生活でも支障なし。</p> <p>④ 無し</p> <p>⑤ 明確な受傷原因が分からないが、全介助の方である為、車いすからベッドへの移乗の介助中等が考えられるため、体に負担がかからない移乗方法へ見直しを行った。費用負担なし。</p> <p>⑥ 無し</p>
------	--

※随時モニタリングを実施した場合は必ずその内容を記載。

※過去に発生したものでも、新たな対応等を実施した場合には、その内容を記載。

※なお、大きな事故・不祥事について改善勧告を行わなかった場合は、その理由を併せて記載。

11. 労働環境の確保に係る取組状況

確認項目	指摘事項の有無	備考
法令に基づく手続き	無	
職員の配置体制	無	
労働時間	無	
職場環境	無	

※指摘事項は、県による監査（包括外部監査含む）又は労働基準監督署によるものとし、有とした場合は備考欄に概要を記載。